

広尾中

中学卒業後の進路 先輩がアドバイス

進路の選択や受験勉強の進め方について
中学生に助言する高校生ら



【広尾】進学や就職が決まった広尾高3年生と卒業生が3日、町内の中学生を前に広尾中で「進路講話」を行い、進路の決め方や受験勉強の進め方などについてアドバイスした。

講話には、広尾中の全校

生徒と豊似中の1、2年生の合わせて約180人が参加した。講師は、道内の大学や看護学院への進学が決まった3人と、道警や民間企業に就職する2人、卒業生1人が務めた。

管理栄養士を目指して名

寄市立大保健福祉学部で推薦で進学する加賀谷有紗さんは、入試で必要だった小論文や面接について「小論文は過去の出題テーマで実際に書いて練習した。面接は聞かれそうな質問と、その返答をノートに書いて先生と練習した」と話した。昨春卒業し、現在は小樽商科大1年生の菅野瑞貴さんは「得意な教科より苦手な教科を伸ばす方が、テストの点数全体がアップする。自分は数学が苦手で勉強に多くの時間を割いた」と振り返っていた。

(足利直哉)

詩集「雪明りの路」作者

文学館 伊藤整に光

17雪あかりの路

市立小樽文学館(色内1)では、小樽の街をうろつくの明かりで照らす第19回小樽雪あかりの路(実行委主催)に合わせ、イベント名の由来となった詩集「雪明りの路」の作者伊藤整にちなんだ展示を行っている。同詩集の初版本などの資料が並び、伊藤の恋人に焦点を当てたパネルも展示している。(長峯亮)

雪あかりの路の期間中、伊藤と同詩集にちなむ展示を行うのは昨年続き2回目。同文学館によると伊藤は、女性への恋心を詩作に生かしていたといい、今回は女性に焦点を当てた。パネルでは、伊藤整は小樽で生活していた学生時代、塩谷から丘立小樽中(現潮陵高)まで汽車で通学しており、車内で見かける女学生たちのことが気になっていたが、声をかけること

作品モチーフの女性 展示で紹介



小樽雪あかりの路に合わせて行っている伊藤整にちなんだ展示

ができなかった」といったエピソードを紹介。
また、小樽高商(現・小樽商科大)の学生時代、女学生から声を掛けられて付き合った恋人をモチーフに詩を書いていたこ

なども展示している。
玉川薫館長は「雪あかりの路の手宮線会場に隣接している文学館に足を運び、伊藤整について知ってほしい」と話している。
入館料一般300円、高校生と市内の70歳以上150円、中学生以下無料。展示は26日までの午前9時半～午後5時(最終入館は午後4時半)。小樽雪あかりの路の最後の週末の11、12日は午後8時まで。月曜と14日休館。